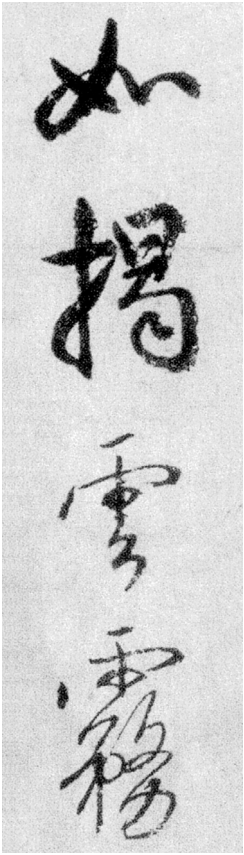


高・大・一般 漢字(行書)

平形 精逸

風信帖ふうしんじょう  
(空海)くわかい  
②



如掲 (雲霧)

〈解説〉

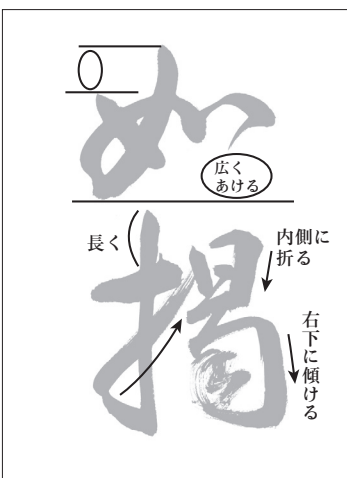
漢字の書体には、「篆書・隸書・楷書・行書・草書」の五つがあります。中でも「篆・隸・楷書」にはそれぞれ独自の字形と用筆法があります。これに対して行書と草書は区別が曖昧で、行書には楷書に近い姿から草書に近い姿まで多様な字形があります。特に「草書に近い行書」と草書の用筆の区別は非常に困難で、「行草書」という呼称もあります。行草体で書かれている代表的な古典は「集王聖教序しゅうおうしょうぎょうじよ」や「顔真卿の三稿、わが国の「風信帖」や「屏風土代」、びょうぶどだい「白氏詩卷」などが挙げられます。

このため、現在の日展をはじめとする全国的な公募展でも行草体の作品は圧倒的に多く、表現効果を高めるために両者をどう混合させるかが重要な鍵となっています。

〈学習上の留意点〉

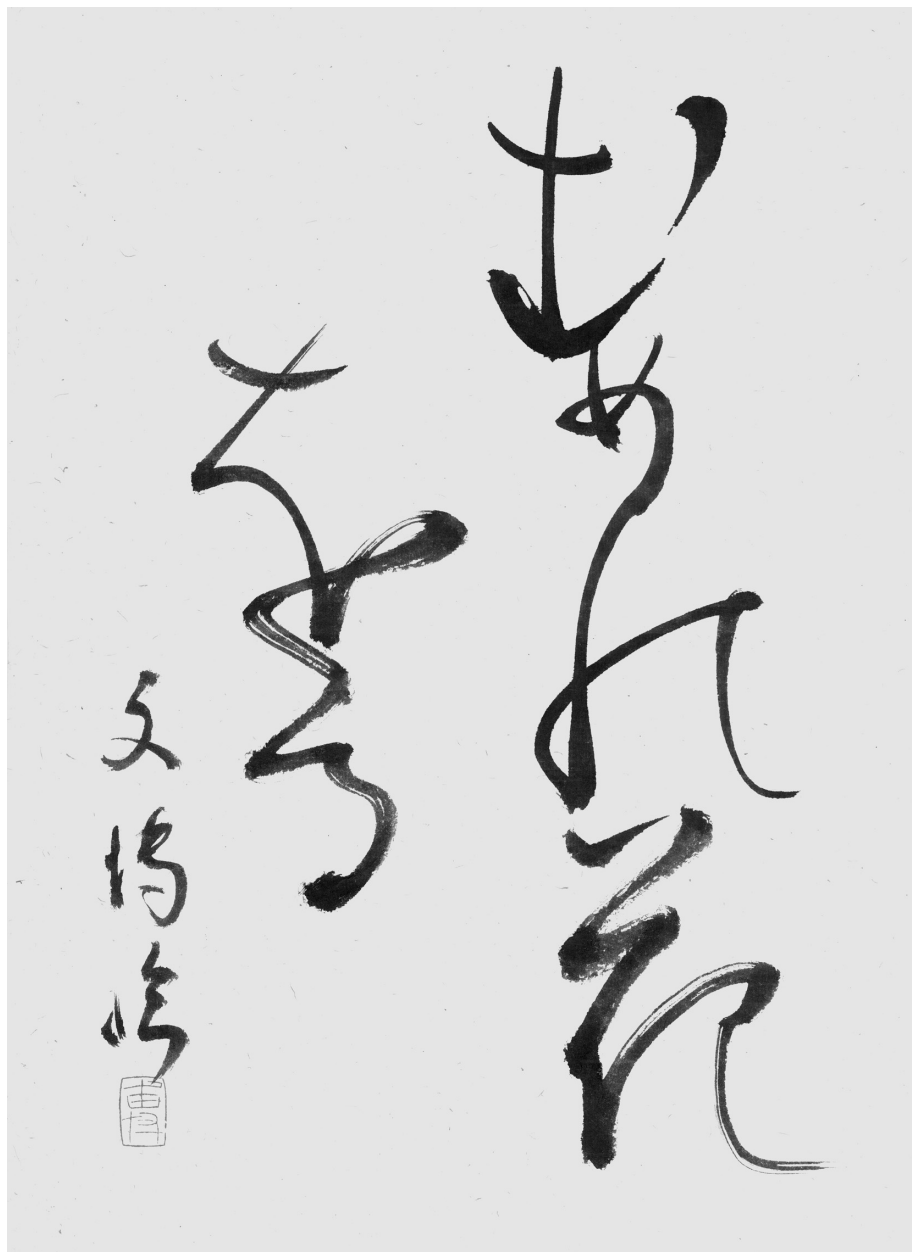
「如」：草書に近い行書 か草書と言えるでしょう。2画目を右上から左下にかけて伸ばし、右旋回させて二つの点を書きます。

「掲」：手偏の収筆は旁の一画目に向けて、旁下方の縦画は右下に向けることが大切です。



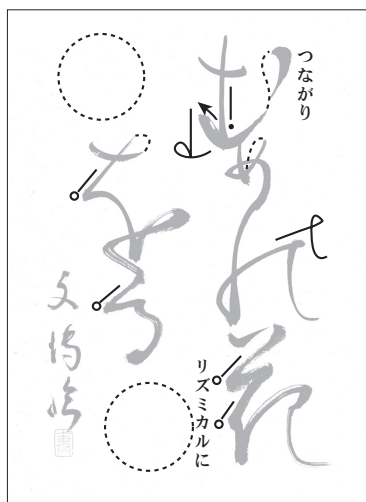
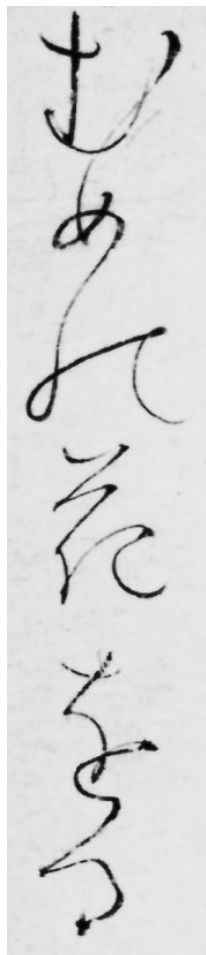
高・大・一般 仮名入門

清水 文博



〈釈文〉むめの花<sup>能</sup>をる

(粘葉本和漢朗詠集)



今回の課題は『粘葉本和漢朗詠集』の最後に掲載されている歌「しらしらし 白けたる年月影に 雪かけわけて 梅の花折る」の最終部です。『和漢朗詠集』は藤原公任が編集したもので、かつ、当人が詠んだ歌です。最後は「白」という題で集められているので、この歌は白をイメージしています。歌意に思いをめぐらせながら書きましょう。

本課題では解説の図で○印をつけている「突き返す部分」に気をつけてください。筆が右上からあたることを意識して、しっかりととめて書きましょう。

用紙はにじみの少ない白色半紙を使用してください。大字のためロール紙は不向きです。筆は兼毫筆を推奨します。仮名の小字（細字）用筆は細すぎるため、この文字の大きさに対応できません。ご注意ください。

〈学習上の留意点〉

- 「む」…結び部分の書き方に注意する。
- 「め」…「む」を受けて書く。つながりに気をつける。
- 「能」…筆の弾力を生かして運筆する。
- 「花」…突き返す部分に気をつけてリズムミカルに書く。
- 「を」…小さくならないように留意する。
- 「る」…連綿をしっかりと受け、小さめに書く。